

水稻生育速報

令和6年7月25日
長岡農業普及指導センター

葉色低下中！2回目穂肥後も葉色薄い場合は追加穂肥を！

コシヒカリ定点調査ほの生育状況（7月25日現在、管内7か所平均）

葉色：31.9 (SPAD) (指標値差 -1.0 = やや薄い)

○前回調査より、葉色の低下が大きいほ場がみられる（前回調査(7/18)に比べて-2.8）。

【今後の気象見通し】（7/25 新潟地方気象台発表 1か月予報：7/27～8/26）

向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

【今後の管理】

1 高温気象に対応した穂肥

- （1）コシヒカリの2回目の穂肥は、出穂後の栄養状態を維持するため必ず施用する（次ページ参照）。
- （2）2回目の穂肥以降も葉色が低下し、コシヒカリの出穂期の葉色が指標値 SPAD 値 32～33 を下回ると予想される場合、後期栄養を確保するため必ず3回目穂肥を施用する。
- （3）全量基肥体系で葉色が低下する場合は必ず追肥を実施する。

【追加の穂肥のめやす】

	栽培体系	使用肥料	判断時期・葉色 (SPAD)値のめやす	施肥時期・施肥窒素量のめやす
分 施 3 回 目 穂 肥	化学肥料体系	化学肥料	出穂期3日前 葉色値31以下	出穂期3日前 1 kg/10a
		有機質 50%肥料	出穂期6日前 葉色値33以下	出穂期3日前 1 kg/10a
	減化学肥料栽培	有機質 100%肥料		出穂期6～3日前 1 kg/10a
全 量 基 肥 追 肥	化学肥料体系	化学肥料	出穂期の葉色値が32～33を下回ると予想されるとき	出穂期10日前 1 kg/10a
	減化学肥料栽培	有機質 100%肥料	出穂期10日前頃 葉色値30以下	出穂期10～5日前 2 kg/10a

2 こまめな水管理を実施

出穂・開花期はイネが最も水を必要とする時期のため、飽水管理の徹底を図る。

3 穂いもち防除とカメムシ防除を徹底

- （1）いもち病に弱い品種や多肥栽培のほ場では、穂いもちの発生が確認された場合、穂いもち防除を「出穂直前」及び「穂揃い期」の2回実施する。
- （2）現在、斑点米カメムシ類の確認地点が多く、斑点米の発生が予想される。薬剤防除は、品種ごとに出穂期を確認し、防除適期に合わせ防除を実施する。

- 農作業事故に注意しましょう。特に草刈り作業は周囲に気を配ってください。
- 農作業時の熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。

【参考】コシヒカリの2回目の穂肥量のめやす

(出穂期の目標葉色に誘導するための2回目穂肥診断)

【診断方法】

- ① コシヒカリの2回目穂肥時期(出穂10日前)のSPAD値を測定する
- ② SPAD値を下図の横軸「2回目穂肥時SPAD値」にあてはめる
- ③ 「2回目穂肥時SPAD値」の縦線が「出穂期の目標SPAD値(32~33のいずれか)」の線にぶつかる位置が2回目の穂肥窒素量となる。

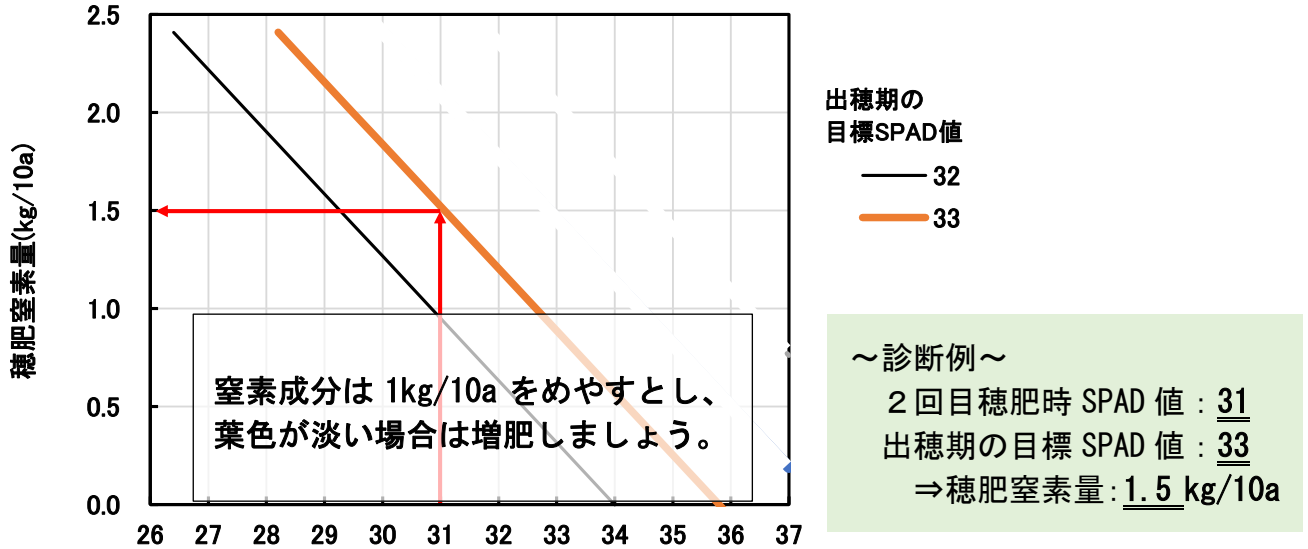


図 目標とするSPAD値別の2回目穂肥時のSPAD値と穂肥窒素量の関係

《データ：新潟県農業総合研究所 R5 年度研究速報より抜粋》

※基肥・穂肥ともに有機質50%肥料を用いた分施肥体系の試験結果に基づいて作成。

※5割減栽培の場合、基肥と窒素の化成窒素の合計が3.5kg/10a以内になるよう注意する

定点調査ほ場生育調査結果(令和6年7月25日現在) 指標値は5月10日移植を想定

品種	地点名	移植日	葉色				出穂期 予想
			本年 (SPAD)	前年差	指標差	7/20 との差	
コシヒカリ	長岡市乙吉町	5/10	30.9	1.5	▲ 1.1	▲ 3.2	8/1
	長岡市菅畑 (栃尾地域)	5/14	33.0	3.0	1.0	▲ 3.8	8/3
	長岡市小国町二本柳 (小国地域)	5/9	32.6	2.1	▲ 0.4	▲ 2.9	7/31
	長岡市岩田 (越路地域)	5/9	33.4	4.0	▲ 0.1	▲ 0.9	8/1
	長岡市寺泊夏戸 (寺泊地域)	5/6	28.2	▲ 4.3	▲ 5.3	▲ 2.8	7/31
	長岡市中条北 (中之島地域)	5/4	30.7	2.8	▲ 1.8	▲ 2.6	8/3
	小千谷市鴻巣	5/16	34.4	5.2	0.9	▲ 3.4	8/6
	平均	5/9	31.9	2.0	▲ 1.0	▲ 2.8	8/2
	※平場コシ平均	5/7	30.8	1.0	▲ 2.1	▲ 2.4	8/1
	※中山間コシ平均	5/13	33.3	3.4	0.5	▲ 3.4	8/3

※平場コシ：長岡市乙吉・岩田・寺泊夏戸・中条北の4か所(それ以外を中山間コシに分類)